

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

2013 年 歳 末

澤 井 貞 子

(沢井眼科 院長)

今年最後の巻頭言、締切を過ぎ、あわてて書き始めています。そして、これを読んでもらわれる会員の先生方は、60 周年記念誌への寄稿を既にご書いて下さいましたでしょうか？こちらの締切も 11 月末です。

皆さんにとって、今年はどんな年だったのでしょうか？ 本年度流行語大賞は、一つに絞れず、「今でしょ」「じぇじぇじぇ」「倍返し」「おもてなし」と、異例の 4 語が選ばれました。それだけ話題の多い賑やかな年だったのかもしれない。確かに色々ありました。私の独断と偏見を持ってですが、世の中、医師会を振り返ってみます。

昨年末に第二次安倍内閣が発足し、今年は「アベノミクス」で始まりました。「景気の良さなど実感できない」と報道では言われてましたが、ここ年末に至って、子供たちへのクリスマスプレゼントまでも増額傾向と判明、まずは順調というところでしょうか。社会事象や事件では、アルジェリアでテロ、体罰問題、PM2.5、富士山の世界文化遺産登録、ロシアに隕石落下、ボストンマラソンテロ、スノーデン事件、メニュー偽装、尖閣・防空識別圏設定や TPP 参加・秘密保護法案関連は、現在も紛糾中、今後とも目が離せません。楽天イーグルスが日本一。マー君も凄いけど、こ

れは（失礼ですが）奇跡的！？千載一遇をものにした東北と楽天に、心から拍手を送りたいと思います。

政治では、7 月参議院選挙、予想どおりの自民圧勝。日本医師会推薦の羽生田先生は無事当選されるも比例区党内 6 位で、「医師会の力」は、依然微妙です。橋下徹市長の慰安婦問題発言、これで一気に世の中の流れが変わりました。「維新」の影響を特に受ける大阪市・府の行政は、今年当初の見通しが今では混沌としています。浪速区もなくなるのか？？ならないのか？？医師会も多少なりとも影響を受けるでしょう。

そして東京五輪開催決定、予想外に？日本中が沸き喜びました。「7 年後」は何をしている？ 生きていけるだろうか？ 等。ただ誘致の立役者、猪瀬都知事がご存知のとおり現在苦境地に立たされています。橋下市長といい、この一年を見ただけでも、一寸先は闇といつか、世の中（いやマスコミ？）は恐ろしい…。

浪速区医師会関連では、3 月に佐久間会長のご学友、日本医師会横倉義武会長が浪速区医師会若手の会に出席されました。大変温厚な観で、我々会員の言うことに、じっくり耳を傾けておられる姿が印象的でした。4 月には森本靖彦先生（愛染橋名誉院長）が瑞宝



小綬章受章。また、当医師会の「ブルーカード」はNHKの朝のニュースで紹介され、今後、全国展開の様相です。

さてさて、来年は、どうなることやら。

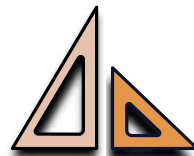
4月には消費税率が8%になりますが、医療界としては、70～74歳の一部負担が2割へ、そして診療報酬改定が大きな節目となるでしょう。先日「来年度診療報酬引き下げ!？」の新聞記事が出て、医師会に動揺が走りました。消費税も上がるし、今回は上がるだろうとの楽観ムードが一転。横倉会長も年末奔走されていることと思います。

浪速区医師会の財政難も相変わらずです。が、改めまして、本年12月24日をもって、法人発足60年を迎えます。現会員は170名弱ですが、60年の歩みを鑑みますと、恐らく千人近い先生方により浪速区医師会は支えられてきたと思われます。そして、その伝統を受け継いで、新しい年、また新しい第一歩を歩んで行くことになります。

会員皆様、ご家族そろって、どうぞ良いお年をお迎えください。



理事会報告



◎平成25年度11月定例理事会

日 時 平成25年11月22日(金)

午後8時～

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 乳幼児健康検査(1歳6ヶ月)への医師派遣(12月5日(木))について

＜佐久間会長＞

浪速区保健福祉センターより標記について派遣依頼があった。

日時 12月5日(木) 午後1時40分～

協議の結果、川田理事に依頼することとなった。

2. 新規開設(はしもとメンタルクリニック)の入会について ＜佐久間会長＞
新規開設に伴う入会希望があり面談を行った。

入会の可否について協議願いたい。詳細は次のとおり。

管 理 医 師 橋本 博史

医療機関名 はしもとメンタルクリニック(予定)

診 療 科 目 心療内科(予定)

所 在 地 難波中2-2-12有馬ビル7F

開設予定日 平成26年4月1日

保険診療開始 5月1日

産業医資格あり

協議の結果、入会を了承。

3. 平成26年度今里休日急病診療所の出務医師について ＜原田理事＞
標記診療所への出務医師割当について資料のとおり案をまとめた。協議願いたい。

日 程		時 間	出務医師名	
平成26年	4月13日	日	10:00~17:00	山口 貴也；川田 信哉
	5月3日	日	10:00~17:00	前田 泰久；橋村 直隆
	6月1日	日	10:00~17:00	久保田泰弘；川田 信哉
	8月3日	日	10:00~17:00	岡藤 龍正；川田 信哉
	10月12日	日	10:00~17:00	中村 淳子；縄 嘉津記
	12月7日	日	10:00~17:00	池田 秀博；井上 宏之
平成27年	1月4日	日	10:00~17:00	佐井 吉永；本田 秀明
				山田 郁子
	2月1日	日	10:00~17:00	菱川 秀夫；有田 繁広

4. 認知症相談医マップ作製に係るアンケート実施について<橋村理事>
標記マップを作成するにあたり、会員へアンケートを実施したい。

協議の結果、了承。

5. 第4回健康展実行委員会（12月6日〈金〉）の出席者について <落合理事>
標記実行委員会への出席者を決めたい。

協議の結果、澤井副会長、落合理事に決定。

6. 今年度健康展の振り返りアンケートと来年度以降の健康展の開催について
<落合理事>
標記アンケートの回答内容について、意見をまとめたい。

協議の結果、澤井副会長がまとめることとなった。

7. VPN システム設定に係る費用について
<久保田理事>
標記費用について、明確に決めたい。

協議の結果、提案どおりとした。また、

電子証明書の更新（2年後）以降の発行費用については、本会会員、他地区医師会会員、連携病院は自己負担とする。

8. 職員の冬期賞与について <木田理事>
例年通りに決定。

9. その他
なし。

報告事項

- 郡市区等医師会長協議会について
（11月22日〈金〉） <佐久間会長>
次第は次のとおり。
▷開会
▷会長挨拶
▷連絡事項
（1）平成25年度文化講演会開催の件
（2）次期大阪府医師会代議員および同予備代議員の件
（3）大阪府医師会選挙管理委員会の件
（4）12月度行事・会合日程の件
▷協議
▷閉会 （詳細 略）
- 大阪市医師会連合会委員会について
（11月18日〈月〉） <佐久間会長>
次第は次のとおり。
▷報告事項
（1）第52回十四大都市医師会連絡協議会（10月26日）分科会報告の件
（2）大阪市介護認定審査会正副会長会（11月15日）報告の件
▷協議事項
（1）学術活動への補助金支給の件
（2）平成25年度各区医師会分担金徴収に関する件 （詳細 略）
- 第3回湊町地域連携フォーラムについて
（11月2日〈土〉） <佐久間会長>
ホテルモントレグラスミア大阪にて開催された。

次第は次のとおり。

▷講演 1

「非典型的な冠動脈疾患を考える」

富永病院 循環器内科

部長 氏野 経士 先生

▷講演 2

「頭痛診療の新展開：新ガイドラインと地域連携」

富永病院 副院長・神経内科

部長 竹島 多賀夫 先生

▷講演 3

「心原性脳塞栓症の制圧を目指して：新時代の到来」

東京女子医科大学 神経内科講座

准教授 長尾 毅彦 先生（詳細 略）

4. 学術講演会について

（10月19日〈土〉） <有田副会長>

講演内容は次のとおり。

演題

「気管支喘息と慢性閉塞性肺疾患（COPD）
～その鑑別とオーバーラップ症候群～」

講師 北野病院 呼吸器センター

副部長 丸毛 聡 先生

出席者数 17名

共催 杏林製薬株式会社

情報提供 気管支喘息に対するキプレス
錠の有用性（詳細 略）

5. 日医在宅リーダー研修会伝達講習会について

（11月7日〈木〉） <有田副会長>

次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷伝達講習

テーマ「かかりつけ医の在宅医療

—多職種協働で考える地域包括システム—」

第1部

（1）在宅医療と地域包括ケアシステム・
かかりつけ医と多職種協働・介護
保険制度の活用

（2）退院調整における介護報酬と診療
報酬

（3）高齢者と在宅医療

第2部

（1）DVD放映

▷閉会（詳細 略）

6. 認知症講演会打合せ会について

（10月30日〈水〉） <橋村理事>

次第は次のとおり。

▷講演会のプログラムについて

▷その他（詳細 略）

7. 医師とケアマネジャーとの連絡会について

（11月2日〈土〉） <橋村理事>

次第は次のとおり。

▷ブルーカード、新システムについて

▷ケアマネアンケート報告（ブルーカー
ド、連携について）

▷医師とケアマネの連携シート（改訂
版）について

▷グループディスカッション

出席者は医師15名、ケアマネ39名
計54名であった。（詳細 略）

8. 学校における食物アレルギー緊急対応の
ための講習会について

（11月7日〈木〉） <徳田理事>

次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷食物アレルギーについて

▷学校における食物アレルギー対応

▷エピペン使用の実際

▷閉会（詳細 略）

9. 60周年検討・実行・編集委員会について

（11月8日〈金〉） <徳田理事>

次第は次のとおり。

▷会場レイアウト等について

▷感謝状の文面について

▷その他（詳細 略）

10. 第30回健康展について

（10月26日〈土〉） <落合理事>

午後1時30分より、浪速区民センターにおいて開催された。
来場者数 約260名。
健康相談件数 29名（※ 昨年度実績 29名）。
内科9名、眼科9名、耳鼻咽喉科10名、皮膚科1名。
出務協力医師：10名。

11. トータル医療ネットワーク協議会について
(11月9日〈土〉) <久保田理事>

次第は次のとおり。

▷第1部

- (1) 取り組みについて説明
- (2) 現在の参加状況
- (3) 在宅医、病院アンケート
- (4) 東成区の参加状況について
- (5) 浪速区の取組みについて
- (6) 在宅医申請書、病診連携のフローチャート

▷第2部

- (1) 病院、地域在宅医のメリットは？
- (2) 「浪速区医師会と多職種専門機関の連携について」
浪速区地域包括支援センター
中川小百合 氏
- (3) 「トータル医療ネットワークについて」
浪速区医師会 久保田泰弘理事
- (4) 来年までの計画

(詳細 略)

12. 第37回府医医学会総会について
(11月10日〈日〉) <久保田理事>

次のテーマで発表を行った。

テーマ「未来の医療情報共有のあり方と方法論」
(詳細 略)

13. 第33回医療情報学連合大会について
(11月21日〈木〉) <久保田理事>
神戸ファッションマートにて開催された。
次のテーマで発表を行った。
テーマ「患者プロフィール情報基盤を考える」
(詳細 略)

14. ブルーカード説明会について
(11月21日〈木〉) <久保田理事>

次第は次のとおり。

- ▷VPNシステムへの変更について
- ▷VPNシステムの設定と操作方法について
- ▷ブルーカードの記入内容について
- ▷その他

出席者は、本会は医師7名、事務3名、他地区医師会は医師3名、事務2名、計15名であった。
(詳細 略)

15. 第47回病診連携委員会について
(10月28日〈月〉) <金田理事>

次第は次のとおり。

- ▷第46回病診連携委員会報告について
- ▷ブルーカードの新様式（救急コード変更含む）について
- ▷VPNシステムについて
- ▷その他

- (1) 患者番号について
- (2) 登録件数について (詳細 略)

17. 新型インフルエンザ等に関する打合せ会について

(11月21日〈木〉) <奥山理事>
次第は次のとおり。

- ▷開会
- ▷新型インフルエンザ等対策特別措置法の留意点について
- ▷地域における新型インフルエンザ等対策について
- ▷新型インフルエンザ対策医療従事者研修会（平成26年3月予定）について
- ▷閉会 (詳細 略)

18. その他
なし。

次回理事会

平成25年12月20日〈金〉 午後8時～

11 月度 学術講演会報告

日 時 11 月 16 日〈土〉 午後 2 時
演 題 糖尿病患者における肥満治療の意義
講 師 国立循環器病研究センター
糖尿病・代謝内科
医長 横野久士 先生
出席者数 13 名
共 催 武田薬品工業株式会社
情報提供 肥満症治療剤 オブリーン錠 120mg の
有用性と安全性
担 当 富永良子

日本における糖尿病人口は、1970 年台は 1,370 万人であったが、2007 年には糖尿病の可能性が否定できない人を含めて 2,210 万人となった。近年、本邦において運動不足や食の欧米化により BMI ≥ 25 (kg/m²) の成人は、4 人に 1 人といわれている。

糖尿病は急性心筋梗塞をはじめ、血管合併症を引き起こす。Finnish study では、心筋梗塞既往のない糖尿病患者と心筋梗塞既往のある非糖尿病患者の心筋梗塞発症率は、それぞれ 20.2 % および 18.8 % とほぼ同等であること、冠動脈疾患による死亡の危険度も両群間で差を認めないことが示された。

そのほかの大規模研究の DCCT、UKPDS では IGT (耐糖能異常) の段階から大血管合併症のリスクが上がり、強化療法による厳格な血糖管理では大血管合併症を有意に抑制できないことが判明した。しかし、IGT または糖尿病早期の段階から治療開始すれば大血管合併症を抑制できた。ADVANCE、ACCORD では 2 型糖尿病において厳格な血糖管理は大血管合併症を抑制せず、肥満と低血糖が助長された。

以上により、血糖コントロール目標が新たに設定された。

糖尿病ガイド 2012 - 2013

目標	コントロール目標値		
	血糖正常化を目指す際の目標	合併症予防のための目標	治療強化が困難な際の目標
HbA1c (%:NGSP 値)	6.0 未満	7.0 未満	8.0 未満

Steno-2 強化治療プロトコールでは、血糖・血圧・脂質の多因子を管理することによって、血糖値のコントロール状況は不十分であったものの 2 型糖尿病において大血管障害の発症を 50% 以上抑制できることが示されている。

肥満は、あらゆる生活習慣病すなわち高血圧、脂質代謝異常、糖尿病、動脈硬化性疾患、睡眠時無呼吸症候群の原因のひとつである。BMI ≥ 25 を肥満としている。太れば太るほど、DM、IGT の頻度は上がり、高血圧になる。メタボリックシンドローム合併の糖尿病患者はインスリン抵抗性が強く、心血管合併症を生じやすい。

内臓脂肪面積 $\geq 100\text{cm}^2$ は内臓肥満型であり、内臓肥満型は生活習慣病の要因で、動脈硬化性疾患を発症させることが多い。

肥満やメタボリックシンドロームの治療は、1、食事療法、2、運動療法、3、行動療法である。標準体重 (kg) は身長 (m) \times 身長 (m) $\times 22$ で求められる。当面現体重の 5% 程度をめどに減量を指導する。内臓脂肪が 20 cm² 減ると心血管疾患の合併は抑制された。運動は、インスリン抵抗性を改善し、基礎代謝を上げる。35 \leq BMI では食欲抑制剤であるマジンドールが適応になるが、オブリーン (一般名セチリスタット) は、2 型糖尿病および脂質異常症を有し、食事療法、運動療法を行っても 25 \leq BMI の場合に使用できる。セチリスタットはリパーゼを阻害し、腸での脂質の吸収を抑えることができる。臨床試験では、偽薬と比して有意に体重を減らし、血糖値、HbA1c、血圧も改善することも示された。

糖尿病治療において、低血糖をできるだけ

起こさないようにする、食後高血糖を是正する、インスリン抵抗性を改善する、多因子管理を行う、早期より血糖コントロールを行うことが肝要である。

平成 26 年

1 月度学術講演会のお知らせ

1 月の浪速区医師会講演会はおやすみです。
次回多数の先生方の参加をお待ちいたします。

本勉強会は、大阪府医師会生涯研修システムの対象となっておりますので、生涯教育チケットの持参をお願いいたします。



大阪府医師協同組合からのお知らせ

ドクターにふさわしいカードとして、
メリットを最大限に高めました。
ぜひお申込みください！

医師会員におすすめする5つのメリット

年会費がお得！

■一般カード

年会費 **無料** ※家族会員も無料
○家族カード4名様まで入会可能！
限度額 **130万円**

■ゴールドカード

年会費 初年度 ▶ 半額5,250円(税込)
次年度 ▶ ※※10,500円(税込)
○家族会員も次年度無料
○家族カード4名様まで入会可能！
限度額 **200万円**

特典付きスイッチカードで便利

世界中のVISAカード加盟店に加え、医師協カード加盟店の独自の特典・メリットが受けられます。

会員向け情報誌「医師協CARDニュース」や「医師協CARD加盟店ガイド」を発行

利用できる加盟店は「医師協CARD加盟店ガイド」でご確認いただけます。
また最新情報は、年4回発行の「医師協CARDニュース」でお届けします。



一般カード

ゴールドカード

百貨店や書店で3～5%OFF、 ホテルのレストランで10%OFF

近畿圏はもちろん、全国にも広がる約300の加盟店で割引・還元があります。

とくとくポイントでさらにオトク

還元率は一般的なカードの約4倍！(組合員のみ)

医師協カード加盟店でのご利用は「とくとくポイント」の対象になります。
組合員は約2.5%、賛助会員は約2.0%の高率ポイントでキャッシュバックされます。
※1ポイントに対する還元金額は年度により変動します。

例えば、「高島屋 大阪店」で100,000円(税別)の商品をご購入された場合

カードご利用特典還元 5,000円	とくとくポイント現金還元 2,375円	実質現金支出額 約92,625円 ※平成23年度還元率
----------------------	------------------------	--

The 60th anniversary

一般社団法人 浪速区医師会 創立60周年記念誌へのご寄稿のお願い

歳末を間近に控え、何かとご多忙のことと存じます。

さて、先月来お知らせしておりますとおり、本会が本年12月に創立60周年を迎えるに当たり、記念式典・祝賀会の開催(26.1.18)と併せて、記念誌「60年の歩み」発刊の準備を進めております。

60年—人生ではまさに還暦という大きな節目を迎えるわけではありますが、その意味からいえば、今回の記念誌は私どもの歩みを刻む“記念碑”といってよいでしょう。このため、私どもといたしましては、できる限り親しみ易く、充実したものと希っております。

このため、かねてより、会員各位のご寄稿をお願いいたしておりますが、残念ながら、思うようにご寄稿が進んでいないのが現状であります。

このたび、改めて会員の皆様のご寄稿をお願いいたしますので、ぜひご協力のほどお願いいたします。

なお、ご寄稿の要領は下記のとおりです。

記

▷テーマ 自由です

- (1) ご自身の歴史(歩み、階層など)
- (2) ご家庭のこと
- (3) 趣味、ペット など
- (4) 医師会のこと 回顧、展望、注文 など
- (5) 詩歌、紀行文、随筆 など
- (6) 人生観あるいは世界観 など
- (7) 物故会員の思い出、追悼 など
- (8) 論文、研究発表
- (9) その他

▷字 数 800字以内(400字詰原稿用紙2枚以内)

▷本人写真 必ずご提供ください(式典・祝賀会の際に撮影も可能です)

▷原稿送付方法 原稿・写真画像はできるだけメールにてご送付ください

▷メールアドレス naniwakuishikai@isis.ocn.ne.jp

※ メールにて送付が困難な場合は、郵送でも結構です。本会までご郵送ください。

〒556-0005 浪速区日本橋5丁目21番15号

一般社団法人 浪速区医師会

浪速区医師会 活動の伝言板

平成 26 年 1 月の各業務の出務予定は次のとおりです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

三 歳 児 健 診

●保健福祉センター

1 月 23 日〈木〉午後 1 時 40 分～ 3 時 30 分

小児科 愛染橋病院

眼 科 澤井 貞子

耳鼻科 中村 泰久

B C G 接 種

●保健福祉センター

1 月 16 日〈木〉 午後 2 時～ 3 時 30 分

工藤俊次郎・北村 栄作

急病診療所出務

●今里休日急病診療所

1 月 5 日〈日〉 10 : 00 ～ 17 : 00

原田 直己・中山 博文

井上 宏之

●中央急病診療所

1 月 6 日〈月〉 深夜 22 : 00 ～ 30 : 00

佐伯 裕司

産業医健康相談窓口

●浪速区医師会

1 月 17 日〈金〉 14 : 00 ～ 16 : 00

北村 栄作

浪速区医師会クラブ活動案内

各クラブ活動は下記日程で行っております。多数のみなさま方の参加をお待ちしております。(ときに時間変更される場合がありますので、各部代表まで連絡をお願いいたします。)

囲 碁 部 毎月第 1 ・ 3 ・ 5 (土)
(川田信) pm 5 : 00～

年末年始休館日のお知らせ

今冬も下記のとおり、浪速区医師会の業務を休止いたしますので、よろしくお願いいたします。

記

12 月 28 日〈土〉～ 1 月 5 日〈日〉

緊急連絡は事務所に ☎ 6633-3818 (転送)





あとがき

Y.M.

2013年のしめくくりである12月号の巻頭言士は副会長の澤井貞子先生であったが、今年のいろんな分野の話題を見事に凝縮しておられるのに感心した。あとがき子にはもはや何も追加することがない。

ただ、個人的なことを言わせてもらえれば、今年は特別な年であった。11月にはとうとう満年齢で喜寿と呼ばれる超？高齢者の部類に入ってしまった。昔なら祝福すべき長寿に達したのだろうけれど、今はむしろ当たり前の単なる通過点でしかない。春にはどういう風の吹き回しか、叙勲と言う栄誉を頂戴したが、最初はこれもやはり年の功だろう程度に思っていた。しかし、浪速区医師会の皆様をはじめ多くの方々から大変祝福して頂き、改めて喜びとその重みを感じた。

浪速区医師会は創立後60年を迎えたわけだが、それは一昔前なら人間の一生の長さである。もし創立時に参加された先生がおられたなら、少なくとも90歳前後であろう。おそらく木下爲弘元会長はそのお一人だと思うが、先生が先日の大阪府医師会創立66周年(浪速区よりもわずか6年早いだけである)の記念式典で、米寿会員として感謝状を頂かれている写真を府医ニュースで拝見した。

概して医者短命だと言われている。事実昭和36年に医学部を卒業した私のクラスは、当時80名在籍していたうち、すでに3割近い23名が亡くなっている。しかもその大部分は70歳に達しなかった。

最近大阪府医ニュースの「会員計報」の欄に何となく目が行く。それを見ると大半が80歳台、とくに85歳前後が多い。そうだとすれば、あとがき子にはあと10年も残されておらず、佗しい気持ちになる。百歳以上が全国で5万人を超えると言う超長寿国ではあるが、なかなか90歳は超えられそうにない。

「ピンピン・コロリ」が一番理想的だと言う人が多いが、中には「生きているうちに今後のことなどと言いきり残して、ゆっくり死んでいきたいので、ガンが一番よい」という人もある。寿命だけは自分で決められないのだから、要は「あと何年生きられるか」ではなくて、「残された時間をどう生きるか」が問題であろう。これからも比較的健康で、他人様にあまりご厄介になることもなく、生きていることが幸せだと思えるような余生を過ごせれば最高なのだが…。

浪速区医師会の皆様は、大阪府医師会の平均寿命85歳？などにこだわらず、今後もお元気で、生き甲斐を感じつつ、幸せな日々を過ごして頂きたいと念じている。

来年は午(ウマ)年、診療報酬のマイナス改定などの嫌なムードを蹴散らして、天まで駆け登る勢いのよい新年の到来を心から期待している。そして、巻頭言士を困らせないように、60周年記念誌の原稿を全会員が1日も早く提出されることを願っている。

どうかよき新年をお迎えください。



目次	ページ
巻頭言	
2013年歳末 澤井 貞子	1
理事会報告(11月開催)	2
11月学術講演会報告 富永 良子	6
平成26年1月学術講演会のお知らせ	7
創立60周年記念誌寄稿のお願い	8
浪速区医師会活動の伝言板	9
年末年始休館日のお知らせ	9
あとがき	10

【区医だより】

発行者 佐久間靖博
編集者 中村泰久 橋村直隆
印刷所 株式会社 サジ